

富山高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	総合国語Ⅲ
科目基礎情報						
科目番号	0119		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	商船学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	「現代文」（教育出版），※古典については、プリントを配布する。					
担当教員	岡部 寛子					
到達目標						
義務教育レベルの国語力の復習と定着を目指すとともに、論理的文章および文学的文章を根拠に基づき論理的に理解する能力を育てる。漢字や語句についても、まずは義務教育レベルの復習と定着を目指す。日本人が古来愛読してきた古典を読み理解することで、日本人としての基礎的教養と多用なものの見方を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	難解な論理的文章や文学的文章を正確に理解し、分かりやすく説明することができる。		難解な論理的文章や文学的文章を正確に理解することができる。		難解な論理的文章や文学的文章を正確に理解することができない。	
評価項目2	課題文や図表を踏まえて、800字程度の小論文を構成を考えて、的確な表現で、論理的に記述することができる。		課題文や図表を踏まえて、800字程度の小論文を構成を考えて、ある程度の確かな表現で、論理的に記述することができる。		課題文や図表を踏まえて、800字程度の小論文を構成を考えて、的確な表現で論理的に記述することができない。	
評価項目3	日本の代表的な古典作品を読み、その内容を正確に理解し、それが文学史的な位置づけや現代における意義を理解し、分かりやすく説明することができる。		日本の代表的な古典を読み、その内容をある程度正確に理解し、それが文学史的な位置づけや現代における意義を理解することができる。		日本の代表的な古典を読み、その内容を理解し、それが文学史的な位置づけや現代における意義を理解することができできない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	義務教育レベルの国語力の復習と定着を目指すとともに、論理的文章および文学的文章を根拠に基づき論理的に理解する能力を育てる。漢字や語句についても、まずは義務教育レベルの復習と定着を目指す。日本人が古来愛読してきた古典を読み理解することで、日本人としての基礎的教養と多用なものの見方を身につける。					
授業の進め方・方法	教員単独による講義中心とする。					
注意点	受講する皆さんへのメッセージ： ・みなさんの積極的な参加、発言を期待している。 ・また、理解度を確認しながら進め、シラバスの内容を変更することもある。 評価が60点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者は、その評価を60とする。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 大人への丸太 たじろがず渡ってみよう		オリエンテーションを行う。 冒頭の随筆を読み、	
		2週	山月記		全体を音読し、流れを理解しつつ、漢字の読み方・難しい語句を学習する。疑問に思った点を書き出し、「山月記」をどのように読むか、問題点を整理する。	
		3週	山月記		8つのグループに分け、問題点について話し合い、レポートとプレゼンテーション資料を作成する。	
		4週	山月記		グループ毎に問題点について発表する。発表後、質疑応答を行う。	
		5週	山月記		グループ毎に問題点について発表する。発表後、質疑応答を行う。	
		6週	山月記		グループ毎に問題点について発表する。発表後、質疑応答を行う。	
		7週	山月記		グループ毎に問題点について発表する。発表後、質疑応答を行う。テーマについて考える。	
		8週	前期中間考査		学習事項の確認と定着を図る。 自分の学習方法の点検をする。	
	2ndQ	9週	奥の細道		「奥の細道」、芭蕉についての文学史的な位置づけを理解する。「旅立ち」を音読し、内容を理解する。	
		10週	奥の細道		「旅立ち」を音読し、内容を理解する。	
		11週	奥の細道		「平泉」を音読し、内容を理解する。 古典作品にみる旅を読む。	
		12週	共生への冒険		音読し、全体の構成を考える。 細部の読解を通し、「民主的精神」について考える。	
		13週	共生への冒険		細部の読解を通し、「リベラリズムの精神」について考え、「民主主義」との関係を理解する。	
		14週	共生への冒険		読解を通し、「豊かな社会」について考える。現代社会の問題についても考察する。	
		15週	期末試験		学習事項の確認と定着を図る	
		16週	答案返却		問題の解説と学習の点検を行う。	
後期	3rdQ	1週	小論文		小論文ノートに基づき、800字の小論文を書くための題材集め、構成の立て方を学ぶ。	
		2週	小論文		小論文ノートに基づき、800字の小論文を書くための題材集め、構成の立て方を学ぶ。	
		3週	小論文		小論文ノートに基づき、課題文の要約の仕方を学ぶ。	

		4週	小論文	小論文ノートに基づき、構成を考えて、800字の小論文を書くことができる。
		5週	小論文	実際に小論文テストを受ける。
		6週	永訣の朝	詩を音読し、そこに込められた作者の思いを読み取り、言葉で表現することができる
		7週	永訣の朝	1つ1つの言葉が何を意味しているかを読み取り、詩の世界を理解することができる
		8週	後期中間考査	学習事項の確認と定着を図る。 自分の学習方法の点検をする。
	4thQ	9週	のちのおもひに	詩を音読し、そこに込められた作者の思いを読み取り、言葉で表現することができる
		10週	のちのおもひに	1つ1つの言葉が何を意味しているかを読み取り、詩の世界を理解することができる
		11週	技術の変質と二十一世紀の課題	全文を読み音読し、全体の構成を把握し論の展開を理解することができる。細部の読解を通し、内容を把握する。
		12週	技術の変質と二十一世紀の課題	論の展開を念頭に置き、細部の読解を通して、内容を把握することができる。
		13週	技術の変質と二十一世紀の課題	論の展開を念頭に置き、細部の読解を通して、内容を把握することができる。
		14週	技術の変質と二十一世紀の課題	論の展開を念頭に置き、細部の読解を通して、内容を把握することができる。テーマをまとめることができる。
		15週	期末試験	学習事項の確認と定着を図る
		16週	期末試験の解答	答案返却

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるすることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	

				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	65	15	0	0	10	10	100
基礎的能力	50	15	0	0	10	10	85
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	15	0	0	0	0	0	15